

定期作況報告

(第5号 平成14年9月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

- 8月下旬：最高気温および最低気温とも各々平年より2.3、1.9℃低かった。降水量は平年より19mm少なく、平年対比64%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より15.9時間少なく、平年対比69%であった。夏日（最高気温25℃以上）は4日間であった。
- 9月上旬：最高気温は平年より1.5℃高く、最低気温は平年並であった。降水量は平年より62mm少なく、平年対比2%であった。降水日数は平年より5日少なかった。日照時間は平年より7.6時間多く、平年対比115%であった。夏日は5日間であった。
- 9月中旬：最高気温および最低気温は各々平年より0.8、2.5℃低かった。降水量は平年より50mm少なく、平年対比16%であった。降水日数は平年より4日少なかった。日照時間は平年より7.6時間多く、平年対比117%であった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	23.0	25.3	▲2.3	24.3	22.8	1.5	19.6	20.4	▲0.8	22.3	22.8	▲0.5
最低気温(℃)	13.8	15.7	▲1.9	13.1	13.1	▲0	8.4	10.9	▲2.5	11.7	13.2	▲1.5
平均気温(℃)	18.1	20.0	▲1.9	18.6	17.5	1.1	14.1	15.3	▲1.2	17.0	17.6	▲0.6
降水量(mm)	35	54	▲19	2	64	▲62	10	60	▲50	46	177	▲131
降水日数(日)	4	5	▲1	0	5	▲5	2	6	▲4	6	16	▲10
日照時間(h)	35.0	50.9	▲15.9	59.3	51.7	7.6	51.2	43.6	7.6	145.5	146.2	▲0.7

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : やや不良

事 由： 8月全般にわたる低温と日照不足により出穂後30日目の登熟歩合は平年を大幅に下回った。出穂後30日目以降は登熟が進み、登熟の遅れは回復しつつあるが、出穂後40日目の登熟歩合は平年をやや下回った。

成熟期は「きらら397」中苗が9月20日現在成熟期に達していないが、「ほしのゆめ」中苗は平年より4日遅く、「きらら397」成苗は平年並であった。登熟日数は「ほしのゆめ」中苗が平年より2日長く、「きらら397」成苗は平年より1日短かった。

いずれの品種・苗も、 m^2 当たり穂数は平年を上回ったが、一穂粒数が平年をかなり下回ったため、 m^2 当たり粒数は平年をやや下回った。一方、7月中旬の冷害危険期に $15^{\circ}C$ 以下の低温が長期間持続しなかったため、いずれの品種・苗も不稔の誘発は軽微で、稔実歩合はほぼ平年並であった。この結果、 m^2 当たり稔実粒数 (m^2 当たり粒数×稔実歩合) は平年をやや下回り、平年対比91~96%であった。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期 (月・日)			登熟日数 (日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	—	9.20	—	—	53	—
ほしのゆめ 中苗	9.18	9.14	4	51	49	2
きらら397 成苗	9.19	9.19	0	54	55	▲1

注1) 平年値は平成7~13年の7カ年から平成10年・平成11年を除いた5カ年の平均値。

ただし、「ほしのゆめ中苗」は平成9~13年5カ年の平均値。

2) △・▲印は平年に比べて早・減を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	m^2 当たり穂数 (本)				一穂粒数 (粒)				m^2 当たり粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	761	672	89	113	43.1	49.1	▲6.0	88	32.8	33.6	▲0.8	98
ほしのゆめ 中苗	804	756	48	106	38.7	45.9	▲7.2	84	31.1	34.3	▲3.2	91
きらら397 成苗	780	704	76	111	40.3	47.6	▲7.3	85	31.4	33.4	▲2.0	94
品 種 苗	稔実歩合 (%)				m^2 当稔実粒数(×1000粒)							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら397 中苗	90.0	91.1	▲1.1	99	29.5	30.7	▲1.2	96				
ほしのゆめ 中苗	92.1	91.6	0.5	101	28.7	31.4	▲2.7	91				
きらら397 成苗	92.1	90.0	2.1	102	29.0	30.1	▲1.1	96				

注1) 平年値は表2に同じ。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後30日目			出穂後40日目		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	10.4	35.3	▲24.9	63.8	65.5	▲1.7
ほしのゆめ 中苗	14.2	49.7	▲35.5	66.8	76.3	▲9.5
きらら397 成苗	16.4	34.2	▲17.8	62.7	69.7	▲7.0

注1) 平年値は表2に同じ。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

3) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 秋まき小麦 : 平年より8日早い9月5日に播種を行った。

3) とうもろこし : やや不良

事 由 : 稈長はほぼ平年並で、着雌穂高は「キタユタカ」で平年より低かった。絹糸抽出以降、登熟期の気温が平年より低く経過しているため雌穂の登熟は遅れている。
したがって、目下の作況はやや不良である。

表5 9月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	稈 長 (cm)			着 雌 穂 高 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	244	245	▲1	98	112	▲14
P3732	275	272	3	131	133	▲2

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) ▲は平年より減を示す。

4) 大豆 : 不良

事由：主茎長及び主茎節数は両品種とも平年を下回っている。分枝数は「トヨムスメ」で平年をやや下回り、「トヨコマチ」ではほぼ平年並である。8月下旬までの低温及び日照不足の影響で着莢数は両品種とも平年を大きく下回っている。
したがって、目下の作況は不良である。

表6 9月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	57	63	▲ 6	9.8	10.4	▲0.6
トヨコマチ	61	65	▲ 4	10.7	11.1	▲0.4

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	6.7	7.2	▲0.5	62	78	▲16
トヨコマチ	6.7	6.5	0.2	62	78	▲16

注1) 平年値は、前7か年中、平成7年及び平成8年を除いた5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

5) 小 豆 : やや良

事由：7月下旬以降の低温少照傾向で、着莢及び登熟は緩慢となり、成熟期は平年より13日遅れた。主茎長は両品種とも平年より長く、分枝数は「サホロショウズ」ではほぼ平年並であったが、「エリモショウズ」では平年より少なかった。最終的な着莢数は、「サホロショウズ」では平年をやや上回っているものの、「エリモショウズ」では平年を下回った。なお、登熟期間が長かったため、百粒重は平年を上回る見通しである。

したがって、目下の作況はやや良である。

表7 成熟期の小豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	9.15	9.2	13	70	59	11	5.7	5.5	0.2
エリモショウズ	9.19	9.6	13	65	57	8	4.4	5.4	▲ 1.0

品 種 名	着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	62	59	3
エリモショウズ	54	60	▲ 6

注1) 平年値は、前8か年中、平成6年、平成13年、平成12年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 平年並

事由: 「男爵薯」の枯凋期は平年に比べ1日早かった。上いも重は、平年比90%と低収であった。でん粉価は14.4%で、平年より0.9%高かった。

「農林1号」は3区中1区が枯凋期に達していたため、1区のみ収量調査を実施した。その結果、上いも重、でん粉価とも平年に比べ10%ほど上回っている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表8 9月20日のばれいしょの生育

品種名	枯凋期(月日)			上いも重(kg/10a)			でん粉価(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
農林1号 男爵薯	未 8.23	未達 8.24	— △1	— 4169	— 4605	— ▲436	— 14.4	— 13.5	— 0.9

注1) 平年値は、前4か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

7) てんさい : 平年並

事由: 8月下旬以降、降水量は少なく、気温はやや低く経過したことから、前報に引き続き草丈は平年に比べやや低いものの、生葉数、根周はほぼ平年並である。

したがって、目下のところ作況は平年並である。

表9 9月20日のてんさいの生育

品種名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	54.3	62.7	▲8.4	32.0	32.1	▲0.1	31.5	33.9	▲2.4

注1) 平年値は前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。